

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちわ。立秋も過ぎ、暑い夏も後半戦。くれぐれもご自愛ください。お釈迦様の教えを噛みしめながら、社会や人のあり方を考える「耕平さんかわら版」。先月に引き続き「苦」について考えます。

犬山寂光院で高名な宗教評論家、ひろさちやさんの講演を拝聴。さすがですね。軽妙なトークの中に、仏教の真髓をちりばめてお話ししてくださいました。

曰く「わからないことはわからないということをおかるといことがわかっていうこと」。何だか呪文のようですが、「なぐるほど」と得心。

「苦」の本質は「思うようにならない」という苦しみ。それを「思うようにしたい」というのは「欲」のなせる業(わざ)。業は「ごう」とも読みます。人の業が欲を生み、欲が苦を生む悪循環。

「わからない」ことを「わかりたい」と思うのも「欲」。「思うようにならない」ことを「思うようにしたい」と行動するのも「欲」。

自分の価値観や深層心理の中で欲していることと異なることは、自分としては「わからない」こと。それを自分の納得のいくようにしようとする、つまり「わかりたい」「思うようにしたい」という気持ちに「業(ごう)」につながります。

先月号では「三苦」を学びましたが、「業」にも「三業」があります。

身業(しんごう)は行動に表れる「欲」。口業(くごう)は言葉に表れる「欲」。妄語(もうご)・両舌(りようぜつ)・二枚舌(にまいぜつ)・悪口(あくぐち)・綺語(きご)・飾った言葉。

意業(いごう)は意識に表れる「欲」。貪欲(とんよく)・瞋恚(しんい)・邪見(じゃけん)ですが、「三

毒」を連想しました。「三毒」は仏教において克服すべきものとされる三つの煩惱「貪(とん)・瞋(じん)・癡(ち)」。つまり「貪り(むさぼり)」「怒り」「迷い(愚かさ)」。

いずれも「欲」に起因し、「わからない」ことを「わかりたい」、「思うようにならない」ことを「思うようにしたい」という「意業」が「口業」「身業」を招き、「三毒」につながります。

人と人、国と国の間でも、相手のことが「わからない」「思うようにならない」という「業」と「欲」が「苦」につながり、争いごとや不満、不安の「三毒」を生み出します。

仏教の教えは、日常生活においても、政治においても、多くの気づきを与えてくれます。ではまた来月。

※



かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣、元厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ13年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学と中央大学大学院の客員教授も務めています。

弘法さんかわら版

弘法大師の生涯と覚王山

第1号から第78号は、2008年に大法輪閣から本になって出版されました。

好評発売中

大法輪閣
(仏教書の老舗出版社)
営業部：電話 03-5466-1401

